

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.10

令和2年10月17日

『信頼と共生のワンチーム』

《学校教育目標》夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

みんなで創る体育フェスティバル

いよいよ体育フェスティバルが来週にせまりました。

「今年は組立体操も徒競走もなく、残念…」おそらく多くのご家庭で感じられていることでしょう。

私たち教員も、これまでの慣例を考えると「本当に全校練習しなくて大丈夫？」と、不安な部分もあります。運動会は、学校の年間行事の中でも大きな行事の一つでしたから、その思いは最もなことです。

しかし、このコロナ禍の中、従来の運動会をすることは不可能です。同時に、今回の学習指導要領改訂を受け、体育科や特別活動を通して育てるべき資質・能力を考えた時、果たして「従来通りの運動会」を踏襲することはどうなのだろうという疑問も生じています。今、運動会についての考え方が大きく転換する時期に来ていることは確かです。

こうした背景での体育フェスティバル…教職員で共通理解していることをお伝えします。まず各学年のねらいです。

6年生 全校の中心となり計画運営することを通して、「学校は自分たちがつくる」という意識を育む

5年生 6年生の後ろ姿を見てリーダー性を育む

1～4年生 目標をもって取り組むことを通して、主体性を育む

次に、種目は3つの視点で考えました。

◇個人の努力が活かされるもの

☞ 2・3分間なわとび（前跳び＋自由跳び）

◇異学年の交流ができるもの

☞ スーパードッジボール（6年生の案）

◇学級づくりをめざすもの

☞ 学年で決めた種目

朝の時間や休み時間には多くの子どもたちが、寸暇を惜しんでなわとびの練習に精を出しています。日ごとに、その子どもの上達が見られます。子どもたちは、どんどん上達していくので、



学級担任からは、

「いつ目標を設定しようか。早すぎても遅すぎてもいけない」

「その子に合った目標を考えるために、一人ひとりの見とりをしっかり行おう」

という声が出ています。休み時間の練習だから子ども任せにするのではなく、教師も一緒になって、「個人の努力」を支援しています。

「徒競走」は「徒競走」なりの良さがあります。でも、足の速さはちょっとやそっとの練習では早々には伸びません。その点、縄跳びは、日々の練習が成果につながりやすく、また数値化しやすい種目です。また、縄跳びは持続力やリズム感覚等、今後体験するであろう、いろいろな運動の基礎ともなります。まさに一石二鳥です。子どもたちは人と比べることなく、自分の力の伸び具合を感じ、達成感を得ています。

今年は2か月に及ぶ長期休業が尾を引き、時間数にゆとりがなく、表現運動の練習時間の確保ができません。そこで、6年生が考えました。

「準備運動代わりに全校ダンスをしよう！」

「嵐」の「手洗いダンス」を、全校ですることになりました。コロナ禍にぴったりのダンスです。休み時間などを使って、

体育委員が全校に指導をしています。ここにも「みんなで創る」体育フェスティバルの要素が満載です。



これまでの運動会では「美しい統一感」を子どもたちに求めてきました。しかし、今年の運動会は違います。当日を迎えるまでの子どもたちの動きが大きく異なります。「やらされる」練習から、「自分からやる」練習に変わっています。

「美しい統一感」はありませんが、一人ひとりの子どもたちが主役となる運動会に一步近づいています。

例年とは異なる「みんなで創る」体育フェスティバル…これまでの過程を想像しながら、ご参観いただけると幸いです。

運営委員会

体育フェスティバルの「はじめの会」「終わりの会」の司会進行、招集等を行います。聞いている人たちに、言葉や思いが伝わるように練習しました。



保健委員会

受付・縄跳びの進行を担当します。参観者の方から健康チェックシートを受け取り、代わりにバンドを渡します。バンドは保健委員会の手作りです。



体育委員会

まず自分たちが手洗いダンスを覚え、全校に教えました。リズムよく踊る姿をご覧ください。交流種目のスーパードッジボールの進行も務めます。

音楽委員会

種目のイメージに合わせた曲を選びました。放送委員会によるアナウンスに合わせて、CD操作ができるように練習しました。



図書委員会

表彰を担当します。なんと、金銀のトロフィは、委員会の子もたちが中心になって手づくりしました。今回は、種目ごとに表彰をします。



放送委員会

各種目の紹介をアナウンスします。マイクの前で話をするのは緊張しますが、家でも原稿を読む練習をして本番に臨みます。

環境委員会

決審の仕事を行います。数字のカードを高く掲げて回転させることで、グラウンドにいる皆さんに着順が伝わる工夫をしています。



教職員紹介

学習指導員 垣本 俊朗さん
10月19日(月)から毎週月曜日、算数TTとして学習の支援をします。よろしくお願いします。

わたしのひとりごと

あなたにとって、「杖ことば」は、なんですか？
私は、よく父親に「約束はちゃんと守りなさい」と言われて育ちました。宿題を毎日やること、家の手伝いをすること、毎日5時に帰ることなど、日々の生活にはたくさんの約束事があります。時には、友達との話が盛り上がり過ぎて約束の時間に帰れなかったり、気分が乗らなくて宿題をやるのが億劫になったり…でも、「ちゃんとやらない」と、決まって父親に叱られました。
叱られた後、時々母親が「がんばりすぎるな」と、こっそり言うてくれるときがありました。「がんばりすぎるな」これも私にとっての「杖ことば」となりました。
コロナ禍の中で、何か新しいことを始めようとすると、いろいろな壁にぶち当たります。AIのように最適な答えばかり明示されては、このコロナ禍の中では何もできなくなります。
「ちよつどいいあんばい」という言葉は、そんな壁を乗り越えさせてくれます。
今、岡小の「杖ことば」になりつつあります。